

令和元年度第2回太白区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事録

○日 時：令和2年3月15日（日）午前9時～16時

○場 所：太白区役所4階第1会議室及び第2会議室

○出席委員：青木ユカリ委員長、岡部邦彦副委員長、笹崎久美子委員、佐藤浩委員、
本田茂委員

○事務局：木田まちづくり推進部長、竹森まちづくり推進課長、千葉地域活動係長、
高橋地域活動係主事、竹内地域活動係主事、菅原地域活動係主事

○会議内容

1 開会

2 第1回議事 【非公開】

議事録署名委員に岡部副委員長を指名した。

- (1) 評価基準・採点方法について説明
- (2) 助成予定額について説明
- (3) 申込事業の概要説明

3 まちづくり活動助成事業に係る事業計画説明会 【公開】

- (1) 開会
- (2) 評価委員及び申込団体の紹介
- (3) 申込状況及び会の進行について説明
- (4) 評価基準・採点方法について説明
- (5) 事業計画の説明及び質疑応答

「西多賀まちづくり推進委員会」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] 西多賀まち物語作成委員会のメンバーによりできた団体とのことだったが、作成委員会以外のメンバーはいるのか。

[説明者] 委員会は3つのチームで構成されており、作成委員会のメンバー以外にも地域活動に活発な方や若い世代が3:3:3の割合で参加している。

[委員] 大きなプロジェクトとしては、樹名板の作成となるのか。また、市民センターや小学校などとは連携した活動となるのか。

[説明者] 大きなプロジェクトは樹名板以外に、子供たちによる紙飛行機作成・三神峯公園からの紙飛行機飛ばしもある。紙飛行機作成の会場に小学校の教室の使用を検討しているため、将来的には小学校などと連携して活動していきたいと考えている。

[委員] 収支予算書記載の横断幕はどこに掲示するのか。また、期間はどのくらいなのか。

[説明者] 掲示場所については、西多賀一丁目の交差点付近を中心に検討中である。横断幕は桜まつりの内容を入れたもので、桜が咲いている期間のみを予定している。

[委員] ユニフォーム 10 名分製作とあるが、誰がどのような目的で着用するのか。

[説明者] 主に三神峯公園の案内をするガイドが活度の際に着用するユニフォームだが、他の活動でも使用する予定である。

[委員] ガイドは全体で何名いるのか。

[説明者] 現在は 10 名。将来的には子供たちにもガイドを任せられるようにしていきたいと考えている。

[委員] 今後 2~3 年の展開について教えていただきたい。

[説明者] テレビでも取り上げられていた丸森町の竹馬などの昔遊びや、西多賀の歴史等を残した DVD、商店街の活性化などをしていきたいと考えている。

[委員] 助成は 3 年受けられるが、自分達で運営できる体制をどのようにつくっていく予定なのか具体的に教えていただきたい。

[説明者] 桜まつり実施にあたり、植樹や幼木のための「三神峯桜募金」を募るとともに、町内会や商店街からの協賛金で運営していきたい。協賛金を集めるにあたっては、地域に活動が根つき、取り組みを理解していただいたうえで賛同いただけるよう、地道に活動していきたいと考えている。

「八木山地区まちづくり研究会」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] 八木山まちづくりプロジェクトの活動を継続することだったが、八木山地区まちづくり研究会との関わり方や違いについて伺いたい。

[説明者] 八木山まちづくりプロジェクトは東北工業大学や日赤などの団体と、ハーブをツールとして 2 年間活動したプロジェクトであり、八木山地区まちづくり研究会とは異なる。共通認識している課題があることから、今回八木山地区まちづくり研究会で実施していきたいと考えている。

[委員] 自己資金はどのように確保する予定なのか。

[説明者] 八木山地区まちづくり研究会は連合町内会を含め 42 の団体で構成されている。各団体から援助をいただく予定である。また、ハーブの取り組みについては今までは販売の場があまり確保できなかったため、フリーマーケットを通して売上を捻出したい。

[委員] 事業計画を見ると合同開催のイベントが多いが、各団体との調整は済んでいるのか。

[説明者] 調整済みである。

[委員] 調整済みということであれば、チラシやポスターの経費も各団体に協力していただけないのか。

[説明者] 市民センターまつりや八木山フェスタなどは主イベントの場所や出し物などを掲載するとその内容で紙面がいっぱいで、今回のフリーマーケットの案内は一行程度となる。個別のチラシやポスターを作成配布することで地域住民に周知し来場を促したいと考えている。

[委員] 研究会の役員には町内会、YARVOG、八木山ベニーランドなど多数の団体が在籍しており、地域包括支援センターなど様々な団体も含めて企画検討しているとのことだったが、まちづくりには、世代間交流しながら具体的に巻き込み、次世代の人をつくって行くことが大切だと考える。その点についてはどう考え、取り組んでいくのか教えていただきたい。

[説明者] 若い世代やおやじの会、学生を巻き込んでいかなければいけないと考えている。ハーブの活動は小学1年生に苗木を植え、育てるよう呼びかけをしている。おやじの会は小学校行事に参加し、町内会としては夏まつりの際に小・中学生による出店を行うなど世代間の交流を図っている。今回は、チラシやポスターを大学生と協働で作成することにより世代間の交流を図りたいと考えている。

[委員] 説明していただいた内容が、申込書にも盛り込まれているとなお良いと感じた。

[委員] 活動14年目ということだが、なぜ今回募集に至ったのか、なぜこの助成金でこのイベントをやろうと思ったのか経緯を教えていただきたい。

[説明者] 研究会の発足にあたっては、東西線ができるにあたり八木山のまちづくりをどのようにしていくかという目的があった。現在は、今住んでいる人たちが高齢化しているため、高齢化をテーマにしている。今回は、地域のために何が必要かを考えた結果、世代間交流や他団体の巻き込みを通して交流人口を増やすために申し込んだ。また、八木山南と八木山の境目の場所である赤十字病院の南側に八木山ニュータウンが造成中であり、新しい住民を迎えながら地域を盛り上げることができると考え、このイベントでの申込をした。

[委員] 収支予算書チラシ作成の次年度とは、2年度分を今年度に作成するという事か。

[説明者] 来年度は春の早い時期からの開催を検討しており、2～3月にはチラシを作成する必要があると考えていることから、2年分を計上している。

「KSS 教室」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] 太白区とどう関係がある事業なのか。誰と協働してどんなまちづくりをしたいのか教えていただきたい。また、太白区の地名などが一言も出なかったが、地域の方に何をしたいのか。

[説明者] 現在2つの教室を自宅付近にて開催しており、まずは身近な人たちに活動を広めたいと考えている。地域を限定するのではなく、太白区の様々な場所から来ていただきたい。今まではレッスンを受けるのみだった方が、これからは地域の介護予防を推進する方になっていただけよう取り組んでいきたい。

[委員] 事業を行ううえでの太白区らしさ、地域性はどこか。

[説明者] 太白区らしさというのはなく、介護予防は全国どこでも必要な取り組みであると考えて

いる。

[委員] 収支予算書と事業計画から計算すると、1回あたりの参加人数が1~2名程度なのはなぜか。

[説明者] 現状で計算した数字である。

[委員] 今ある老人クラブや町内会を巻き込みながら活動すると、まちづくりに絡めて介護予防の推進ができるのではないか。色々な方を巻き込んで活動してみてもどうか。周囲と相談しながら、事業計画や収支の見直しの必要があると思われる。

[委員] 介護予防はグローバルな課題、地域コミュニケーションの課題としてもとても大切な活動であるが、一人で活動しているように見受けられるので、会員の方とも打ち合わせ等を重ねながら具体的に地域の課題をとらえた事業計画を立てていただくと良いと感じた。

[委員] 想いはとても伝わった。今年の2月に立ち上げたようだが、この活動について周囲に相談したのか。

[説明者] 理学療法士の勉強会で介護予防が課題としてあげられており、週2回の訪問介護とピラティス教室を通してこれが介護予防ではないかと思い、今回に至った。理学療法士は多忙な方が多く、周囲には特に相談していない。

[委員] 活動のゴールにいくためにはいくつかの方法があり、各団体などに相談すると一番大事にしたいことを軸に、様々な方法が出てくる。ぜひ、視野を広げた活動に取り組んでいただきたい。

[委員] 全国共通ではなく、太白区でなければいけない理由が見えてくると、この助成金を活用する意味が感じ取れるのではないか。

[委員] 町内会などの団体に1年程度お試しレッスンを開催し、地域需要を判断する時間をつくってはいかがか。地域に入り込むことにより、協力者やアドバイザーが出てくると思われる。理念は十分持っているので、どう展開していくかのアイデアを考えるためにも地域に入り込んで周りの協力を得ていただきたい。

「らいらいの会」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] 区民とはどのように協働していくのか。また、事業は助成金がなくても実施するのか。将来的な可能性や地域との関係づくりをどう考えているのか、ほうねん座の身内の会のようにみえるが、どうかたちで地域の方と連携しているのか伺いたい。

[説明者] 秋保の方々とつながりを持っていきたい。イベントでは、何か活動されている方たちやほうねん座より和太鼓や篠笛の講習を受けている秋保中学校の披露・発表の場にもなると考えている。太白区は芸能が豊富にあるため、秋保総合支所や秋保教育文化振興会の意見も聞きながら活動していきたい。また、助成金がなくても開催したいと考えている。今回の申請理由は、芸能団体に出演依頼するにあたり、出演料がかかってくる場合があり、自分たちの活動は年会費で運営しているため、捻出が難しいことからである。継続してイベントを開催したいと考えているが、

毎年は難しいと思っている。団体や地域の調査を行い、伝統芸能を守るためにも続けていきたい。らいらいの会発足の経緯は、ほうねん座の応援をしながら民族文化に寄与したいという思いからである。現在は太鼓教室などの講習や、市民センター等にチラシを置き、広く周知している。

[委員] 支出予算書を見ると、商業イベントのようにも見受けられる。地域のために関わる点について伺いたい。

[説明者] 団体の活動資金になることも考えていかなければならないと思っている。

[委員] 説明者の勤務地を見ると有限会社ほうねん座となっているが、社員ということか。また、らいらいの会の会費は総会で決めるとあるが、額を教えてください。

[説明者] ほうねん座の社員であり、らいらいの会と兼務している。会費は月 100 円、年間 1200 円である。

[委員] 会員を幅広く募って活動していただきたい。

[委員] ほうねん座の存続のための活動は大事にしていきたいが、らいらいの会はマネジメントのような部分が強いように見受けられる。活動のすみわけをすると良いのではないか。また、この会を今後どう継続していくのか現時点での計画を伺いたい。

[説明者] らいらいの会主催の講習会を月 1 回定期的に実施していく。また、会員以外も参加できる栗駒市や伊達市などのまつりの見学ツアーなども実施予定である。

「中田中部町内会連合会」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] 収支予算書の保険料が 2 倍となっている理由について伺いたい。また、イルミネーションイベントの資金が不足した分はどのように補ったのか、新たに 1 つの団体から協力を約束していただいたとあるが、どの団体か。

[説明者] 今年度 5,000 円の保険に加入したが、内容が不十分であることが判明した。イベントの内容に合った保険に加入するためには 2 万円程度必要であるため、増額している。資金不足分については、各町内会からご祝儀をいただくことができたので、その金額で補填した。また、新たな団体はおやじの会である。

[委員] 新たな住民の孤立化は、イベントを通じてどのように防げると考えているのか。

[説明者] おやじの会などを巻き込み、若い世代の溶け込みを図りたい。

[委員] イベントに来ることで孤立化を防ぐのではなく、スタッフとして巻き込むことで孤立化を防ぐということではよろしいか。

[説明者] その通り。

[委員] 暮らしの中の日常にどうつながっていくのか、どう生きていくのか、参加人数とは別の形で考えていけると良いのではないか。昔あそびイベントを月 1 回開催するなど小さいプログラムも開催していただきたい。イベントだけでなく、関わる人達のつながりをアピールしていただきたい。

[説明者] 中田中部町内会連合会では、小学校見回りボランティアや高齢者の自宅見回りボランティアが数十名おり、地域の子供や高齢者との関わりはできていると感じている。また、アフタースクールとして月3~4回、学校が終わった後に小学生たちと1時間程度昔遊びやグラントゴルフを行っている。

[委員] 助成終了後は寄付をいただいてとのことだが、今回の収支予算書を見ると、1年目の協賛金より減額した金額となっている。自己資金を確保した予算計画を検討していただくとより良いと思われる。

[説明者] 今年度より、周辺の企業や町内会より1件当たり3,000円と金額を定め、寄付を募る予定であるが、どの程度集まるか検討がついていないため、今回の金額を設定している。

「一般社団法人 Sound キャンパス」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] 楽しみながら活動している様子が伝わった。メンバーは増やす予定なのか。また、収支が3年間ほぼ同内容であり、消耗品が50%程度を占めている。消耗品の内訳を具体的に教えていただきたい。

[説明者] 現在いる4名のメンバーから増やす予定はないが、協賛金をいただく特別会員は増えている。消耗品は主におくづかけの材料費とバナナの購入費が占めている。今までは大きな器で提供していたが、半分の量にするなど、工夫していきたい。鍋などの物品はこの2年間でおおむね揃えることができたので、消耗品が占める費用は減少すると思われる。

「YARVOG」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] 部門制をとっているとのことだが、それぞれにどのくらいの方が関わっているのか。

[説明者] ぼうさいダンスや高齢者部門は4名程度、防災食部門は3名、非常用携帯トイレ製作部門はメンバーだけでなく地元老人クラブの方などにお手伝いいただいている。

[委員] 出前講座は広まってきているのか。

[説明者] 小学校や市民センターなどから依頼をもらっている。半分くらいは謝礼をいただいております、助成金が終了しても活動できると考えている。

[委員] ブックレット製作は夏頃からで間に合うのか。

[説明者] レシピは既に出上来上がっており、構成の検討のみであるため夏頃からの製作で間に合うと思われる。

[委員] PRパンフレットとはどのようなものか。

[説明者] 出前講座ではなく、YARVOG主催で開催する際のPRチラシである。

[委員] 年次で使うようなものと団体紹介として使用するものどちらか。

[説明者] 現在検討中である。

[委員] ブックレットの6,000部はどのように展開予定か。

[説明者] 8年かけて配布し、次の発行や活動資金につなげたい。

[委員] 会費500円はあくまで材料費であり、ブックレットは無料で配布するということか。

[説明者] その通り。

「活いきサークル「たんぼぼ」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] コミュニティバスの試験運行について、リフトバスは何名乗車可能で運行時間は何時なのか、会員以外も乗車可能なのか教えていただきたい。

[説明者] バスの定員は10名であり、1日1往復を予定しており、時間は行きを午前、帰りを午後とする予定である。現時点では会員以外は検討しておらず、利用したい方には会員になっていただくことで、会員数の増加を図りたい。

[委員] まちづくりとしてのコミュニティバス運行なのか、地域の足を確保する別の助成金の対象となるのか相談はしているのか。

[説明者] 都市整備局の助成金をホームページで見たが、要件が多く、現段階で申し込むことは厳しいと判断した。今回は地域の方の足としての足掛かりとして実施したい。

[委員] 今回助成が採択されなかった場合は実施しないのか。

[説明者] 茂庭苑関係者と協議し、検討したい。

[委員] 乗車対象者だけでなく、乗降場所も茂庭苑限定ということか。

[説明者] 通り道に関しては、ニーズに応じて対応したい。

[委員] 現行の制度やなんらかの法に触れるか事前の確認が必要だと思われる。ニーズは十分にあると思われるが、近隣商業施設として一度実施していたものが廃止となった原因を把握した方が良いのではないかと。また、活動や会員の広がり等は想定していたステップで進んでいるのか。

[説明者] 学生の協力など世代の広がり等は想定していたとおりにできたと感じる。高齢者の主体性という面は難しく、長い目で見て、自らやってみたいという意見が出た際にうまく引き込みたい。

[委員] 誰のためかを考えて事業を見直しながら関わり方が変わっているように感じる。主体性などは会話の中で生まれてくると思われる。3年目でちょうどいい塩梅を見つけられると良いのではないかと。

[委員] 大学と連携しながら、社会・地域のニーズに答えている。コミュニティバスについては収支に保険が含まれていないので、事故に対する対応も含めて検討いただきたい。

(6) 閉会

4 第2回議事 【非公開】

(1) 評価

助成の可否について

[委員長] 各委員の評価結果をとりまとめたところ、「みんなで八木山まちづくり」、「呼吸と姿勢とストレッチ」、「(仮称) 芸能文化でつながるパフォーマンスイベント」事業については、当助成事業の採択候補事業の選定基準を満たしておらず、その他の5事業についてはこれを満たす結果となった。この結果を基に、基本的には採択候補事業の選定基準を満たした5事業を太白区まちづくり活動助成事業として採択候補事業とすることとしてよろしいか。

[各委員] 異議なし。

申込事業の助成金額に係る協議内容は以下のとおり。

「三神峯の“桜縁”が結ぶ『遊びと学び』ここ西多賀に賑わいを！」

助成額については特に異論なく、申込どおりとする。なお、横断幕は数年使用できるような内容のものとしてほしい。

「中田中部地区みんなで交流・地域づくり仲間づくりプロジェクト」

助成額については消耗品や製作費の詳細の内訳を事務局で確認のうえ、問題なければ申込どおりとする。

「つなごう 秋保千年の里山文化 ～長町の下町文化との連携共助の活動～」

助成額について、調理関連の費用を除いた形で、確定作業を進めていただきたい。

「「ぼうさいダンス」を世界に広めよう」

助成額について、ブックレット作成費が高額となっているため、事務局で精査し、確定作業を進めていただきたい。

「茂庭台地域活いききプロジェクト～住みよい地域づくりを目指して～」

助成額について、コミュニティバスの運営方法や費用を除いた形で、確定作業を進めていただきたい。

(2) その他

- ・令和2年度まちづくり活動助成事業について、再募集を行うこととする。

5 閉会